

平成19年度特色ある学校づくり推進事業実施報告書

学校名【高浜市立高取小学校】

1 タイトル 川がきになろう ～稗田川に親しみ、稗田川に学ぶ～

2 本校の実態

本校の南、道一つ隔てて稗田川が流れている。その土手には春には菜の花や桜が咲き乱れ、秋には彼岸花が川面を彩り、大変美しい自然の景色を見せてくれる。また、大きな鯉やカルガモの生息も見られ、子どもたちを喜ばせている。これらの景観は稗田川を愛する「かるがも会」や「清流会」などの地域の方々の努力により守られている。本校の特色の一つである「水辺の学校」は近年定着してきた。

総合的な学習が施行されると、4年生が中心となって「稗田川となかよくなるろう」と題して地域の宝とも言うべき稗田川の観察研究を始めた。稗田川の水質検査をしたり、稗田川の生き物調べをしたり、上流、下流を散策したりしながら稗田川に親しんで来た。他学年でも、さかんに稗田川に出かけている。低学年は植物や虫などを観察したり、高学年は川に入って水生生物を調べたり、鯉を捕らえて学校にある愛知池やきぼうの池に放流したりした。そして、地域の社会人講師の倉内さんや神谷さんを講師に招き、稗田川の自然についていろいろなことを教えていただいたりした。



「桜の木の下で」

子どもたちは自分たちにできることに取り組んでいる。鮫川・稗田川の清掃活動に参加したり、自分たちのささやかな活動を知ってもらおうとパネルを作ったり、看板を作ったり、昨年まで行われていた「植樹祭」に参加し、稗田川の土手に木を植えたりしてきた。

平成13年度には、緑と太陽の教室にビオトープ「きぼうの池」が完成した。その年の6年生の子どもたちの手作りの池である。さらに「きぼうの川」が掘られ、平成14年度には通称「ガチャポン」と呼ばれている手こきの井戸ができた。小さい子どもたちも川遊びがしたい。だが、稗田川ではまだ無理である。しかし、校内には「きぼうの川」や「きぼうの池」がある。水深は20cmから30cmである。池には丸太が3本渡してある。時には池に落ちてどろんこになったり、パンツを濡らしたりする。だから、保健室には常時替えのパンツが用意されている。「きぼうの川」には、小さな手で汲まれた水がいつも流れている。ビオトープができて、緑と太陽の教室で遊ぶ子どもがとても増えた。特に低学年でいつもにぎわっている。平成17年度から、稗田川の本校南に位置する堤防の整備が始まっている。南舎一階にある「ひえ田川水族館」の水槽前では泳ぐ魚の姿を一心にのぞき込む児童が後を絶たない。川や水・生き物と関わり合う姿が日常のものとなっている。

3 事業のねらい

タイトル「川がきになろう」には大きく3つの意味が込められている。

- (1) 稗田川となかよくなるろう
- (2) 稗田川に学ぼう
- (3) 自分たちにできることを実践しよう
である。

「稗田川となかよくなるろう」は、文字通り「川がきとなって川で元気よく遊ぶ子」をねらうものである。総合学習の時間に稗田川の観察やスケッチに行くと、子どもたちの目は輝き、そして、できれば水に入って遊びたいという想いが伝わってくる。実際、水の少ない日に、中に入っても良いよという、ばしゃばしゃと水の中に入っていく。本来、子どもは川遊びが好きなのだ。身近にある自然を、是非、子供達の学習の場にしたい。しかし、現在、前橋の所には「ここでは遊ばない」という看板が立っている。子どもだけで勝手に遊んだら危険だからである。何度も講師としてお招きしている神谷さんの話を思い出す。「昔は、よく川で遊んだものだ。泳いだり、魚や貝を捕ったり、でも、昔の子どもは川の怖さもよく知っていて、これ以上は危ないとみんな知っていた。だから事



「やっと捕まえたよ」

故もなかった。みんなは自然を愛すると同時に自然の怖さも勉強しないとイケないよ。」元氣よく川で遊ぶ子どもであって欲しいと願うならば、学校教育の一環として「川がき」をとらえ、授業の中で、教師また地域の方の指導のもとに活動を展開し、川で遊ぶルールを学びつつ、川で遊ぶ楽しさを味わわせなければならない。

この点について、地域の方はとても協力的である。協力的というより、何もお願いしなくても、観察ができないくらい草が伸びると、日曜日に大勢の方が出て草刈りをしてくれる。また、子どもたちが川に降りやすいように、土塁を組んで階段を作ってくれる。前橋のところには、竹炭を運びやすいようにと梯子をかけてくれるなど、子どもたちの活動を見て子どもたちが川で活動しやすいよう手助けしてくれる。大変ありがたいことである。

「稗田川に学ぼう」では、多くの子どもたちの活動が期待できる。自然は実にたくさんのことを教えてくれる。土手を歩けば、数多くの草花や昆虫が見つかるし、川を観察すれば、カルガモ、白鷺、千鳥、カワウ、カメ、ザリガニ、鯉、その他多くの生き物を見ることができる。また、季節によって川の水が濁ったり、澄んだりする。2年前には、地域の方に水深計を立てていただいた。季節によっても、1日の中でも、潮の満ち引きの関係でも川の水深が変わることがよく分かるようになった。

また、水質検査は、川の水の汚れ具合を知ることができ、環境問題を考えるきっかけともなる。低学年から高学年まで、その発達段階に応じて、いろいろな角度から無限に学ぶことがある。

「自分たちにできることを実践しよう」では、とても身近で学校の一部のように感じられる稗田川を自分たちの手で、できるだけきれいな川にしよう、という実践である。高浜にあるクリーンセンターに見学に行ったり、講師をお招きしお話を聞かせていただいたりして、環境問題を考えるきっかけにする。また、立て札や看板を作ることで実践力を高めようというねらいである。

これらの稗田川学習「川がきになろう」を通して、本校の教育目標である「心豊かで、たくましく、実践力のある子どもを育てる」を具現化していきたい。また、子どもたちの学習成果が稗田川の未来につながり、子どもたちの考えや願いが高浜市の「川の道構想」に少しでも反映でき、地域の活性化に役立てばよいと考える。



「色々いるんだなあ・・・」



「今日の水はどうかかな？」

4 事業の内容・方法

<事業の内容>

- 川の清掃・・・川の中や土手の危険物、ゴミ拾いなどをする。
- 水質検査・・・前橋～法響橋までの間の3カ所で定時・定点観測を実施。
- 水質浄化・・・クリーンセンターの見学を通じ、水質浄化の意識を育てる。
- 水辺の学校・・・稗田川で楽しく遊んだり、ビオトープで遊んだりする。
- 生き物を育てる・・・ひえ田川水族館でひえ田川に住む生き物を飼育し観察する。

<事業の方法>

- 「清流会」(NPO たかはま)・「かるがも会」・「生活安全グループ」との連携で、定点・定時観測で水質検査と水生生物の調査をする。
- 鮫川・稗田川清掃に参加する。(親子で参加)
- 各学年、理科・総合の時間などに稗田川の散策や観察、生き物調べをする。
- 社会人講師を招き、稗田川の話聞く。
- 社会人講師を招き、ホテルの話聞く。
- 社会人講師を招き、稗田川の生き物の話聞く。
- 稗田川で遊びを楽しむ。(魚つかみ、生き物つかみ、草遊び等)
- 4年生は3年生に、学習したことを発表し伝える。
- 各学年に応じた活動を計画し実践する。

5 事業の計画 (平成19年4月6日～平成20年3月14日)

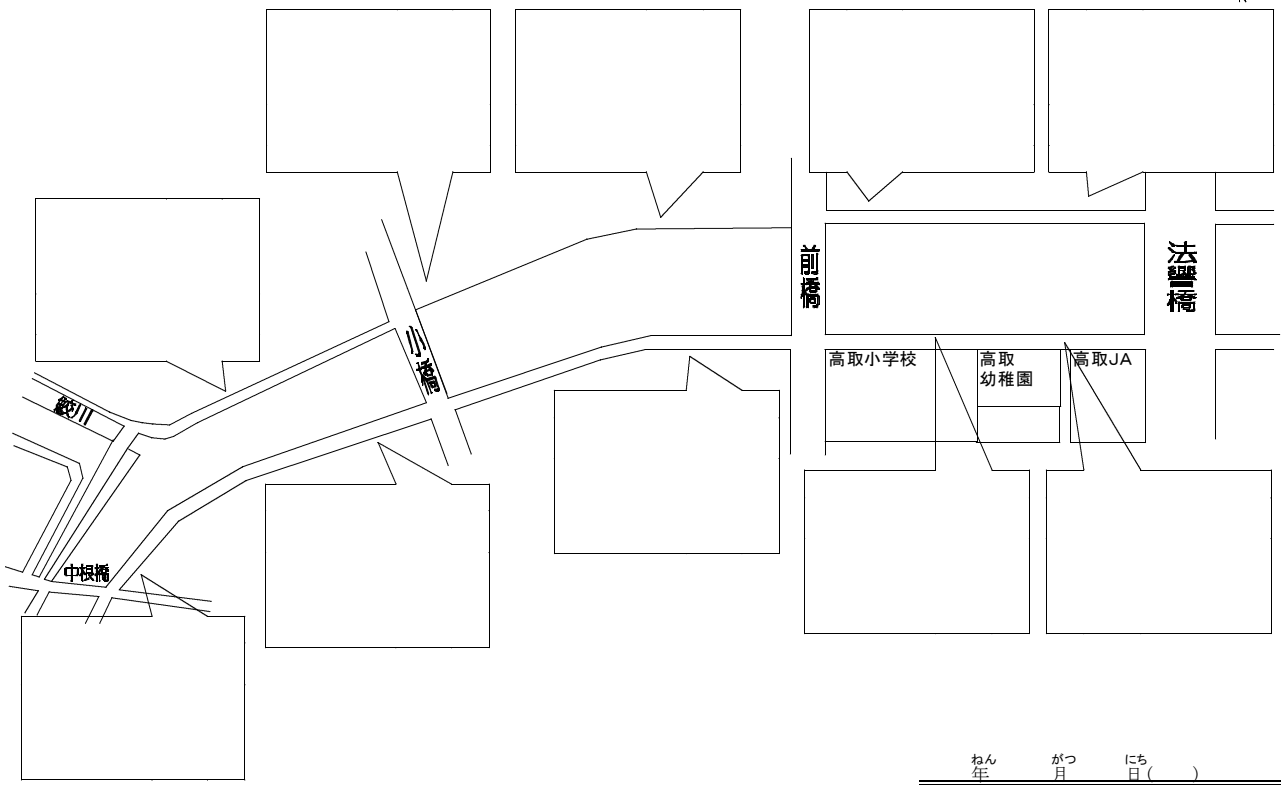
| 月 | 学年 | 活 動 内 容 (①～⑬については活動の実際で詳細を述べる) | | | 教育課程 |
|----|---------|--|---|---|---|
| | | 稗田川となかよくなるろう | 稗田川に学ぼう | 自分たちでできることを実践しよう | |
| 4 | 全 | <ul style="list-style-type: none"> ・稗田川での写真撮影② ・春がいっぱい ・学校のまわり ・季節と生き物(春)⑤ ・私たちをとりまく環境と生活 ・稗田川を散歩しよう | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水質検査・水生生物調査・定点観測(毎週木曜日午後3時:稗田川クラブ)③ </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・かるがも会の鮫川稗田川清掃に参加① ・カルガモの観察④ ・ホテルについて学習・放流⑥ | 課外活動 学活 総合学習 生活 社会 理科 理科 生総学 |
| | 4 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| | 4 | | | | |
| 6 | 全 | <ul style="list-style-type: none"> ・稗田川を散歩しよう | | | |
| 5 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・春の遠足⑦ ・ホテルを育てよう ・米作りの学習⑩(～12月) ・稗田川を散歩しよう ・稗田川の終点を見に行こう⑬ | <ul style="list-style-type: none"> ・かるがも会の人のお話を聞こう⑧ | <ul style="list-style-type: none"> ・稗田川クリーン大作戦の実施⑨ ・ホテルを育てる⑩ ・泥んこカップに参加⑫ | 総合学習 総合学習 総合学習 課外活動 総合学習 生総学 |
| | 3・4 | | | | |
| | 4 | | | | |
| | 5 | | | | |
| | 全 | | | | |
| 6 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルを育てよう ・季節と生き物(夏)⑯ ・チョウを育てよう⑱ | <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルを育てる⑭ | <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルを育てる⑮ ・デコスールに参加⑰ | 総合学習 理科 理科 |
| | 4 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 7 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルを育てよう ・生き物大好き ・ホテルを観察しよう⑳ | <ul style="list-style-type: none"> ・稗田川新聞を作ろう ・水生生物による水質検査に参加㉑ | <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルを育てる⑲ | 総合学習 生活 課外活動 課外活動 |
| | 2 | | | | |
| | 全 | | | | |
| 8 | 全 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水質検査・水生生物調査・定点観測(毎週木曜日午後3時:稗田川クラブ)② </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン大作戦の実施 | 課外活動 課外活動 |
| | ひえだ川クラブ | | | | |
| 9 | ひク | <ul style="list-style-type: none"> ・カシバナを見に行こう㉒ ・稗田川に入ってみよう ・虫見つけたよ ・まち大好き ・きれいな水をつなげるために | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水質検査・水生生物調査・定点観測(毎週木曜日午後3時:稗田川クラブ)② </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・ECOレンジャー21に参加㉓ | 課外活動 総合学習 生活 生活 社会 総合学習 |
| | 全 | | | | |
| | 4 | | | | |
| | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| 4 | 全 | | | | |
| 10 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・季節と生き物(秋) ・川の水のはたらき㉔ ・稗田川を散歩しよう | | <ul style="list-style-type: none"> ・かるがも会の稗田川鮫川清掃に参加㉕ | 総合学習 理科 理科 生総学 |
| | 4 | | | | |
| | 5 | | | | |
| | 全 | | | | |

| | | | | | |
|----|------------------|--|--|-----------------------------|---------------------------------|
| 11 | 4 | ・稗田川源流ツアーに出 かけよう | | | 総合学習 |
| | | <p>学芸会で「まほうのことば」を発表㉔ 歌で、今まで学習してきたひえ田川への思いを、他学年や保護者 に伝えた。</p> | | | |
| 12 | 4 全 | | | ・上下水道 G のお話㉕ ・碧南水族館員のお話㉖ | 総合学習 課外活動 |
| 1 | 4 | ・季節と生き物（冬） | | | 理科 |
| 2 | 全 4 6 全 | ・水のゆくえ ・生き物の暮らしと自然 環境 ・稗田川を散歩しよう㉗ | ・発表会準備(学習の まとめ)㉘ ・衣浦東部浄化センターの 見学㉙ | ・環境保護の看板、 パネル作成・設置㉚ | 総合学習 総合学習 理科 理科 生総学 |
| 3 | 3 4 | 4年生による3年生への発表㉛ | | | 総合学習 |

★稗田川発見カード（観察用）

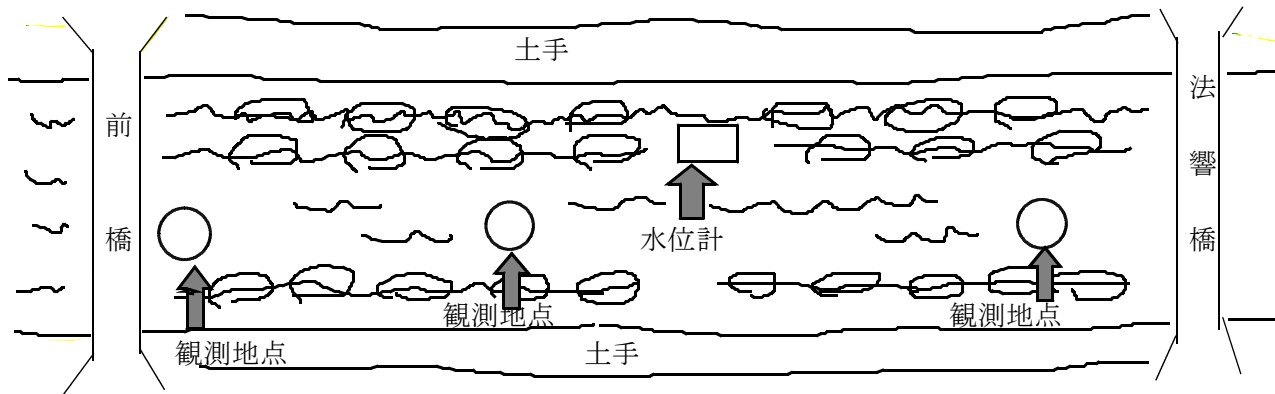
ねん ぐみ ばんなまえ
年 組 番 名前
ひえだがわはっけん
稗田川発見カード 1

ちゅうい じぶん
注意 ・書きたいことがたくさんあって、ふきだしが足りないときは自分で
つくって書きましょう。



ねん がつ におひ
年 月 日 ()

★稗田川水質検査



6 事業の浸透方法の実際

(1) 全児童への浸透

- ・稗田川学習成果をパネルにして掲示した。
- ・定点観測の結果等を総計図表にし、廊下に掲示した。
- ・全校集会で稗田川に関する呼びかけや連絡など行った。
- ・「ふるさとの川 ひえ田川」の練習（1ヶ月）と全校集会での合唱

(2) 保護者への浸透

- ・学芸会の中で学習成果を生かした発表を行った。
- ・ひえ田川通信を発行した。
- ・ホームページ、ブログなどで活動を紹介した。

(3) 地域社会への浸透

- ・4月と9月のかるがも会主催行事「春・秋 稗田川・鮫川清掃とバーベキューの会」に参加し、学習成果を発表した。
- ・学芸会に地域の方を招待した。
- ・岡崎青年の家での「デコスクール」で発表した。
- ・本校のホームページへ学習成果を掲載した。

7 活動の実際

①かるがも会の鮫川稗田川清掃に参加しよう

春の恒例行事「稗田川・鮫川清掃と桜祭りバーベキュー大会」では昨年の雨の中とは違い、春を感じさせる暖かい日差しの中、かるがも会の方たちと一緒に川の清掃を行った。最近ゴミの量がずいぶんと少なくなり、思ったほどゴミが集まらなくなってきた。うれしさの中物足りなさを感じながらゴミの回収を終えた。土手の桜は順調にそのつぼみをふくらませており、清掃のおかげで、入学式にはきれいに桜が咲く風景を見ることができた。



「見事な桜の中」

②稗田川で写真撮影をしよう

4月初めには、学級開きとしてほとんどの学級が全員で稗田川へ行き、個人の写真を撮ったり、学級全員で写真を撮ったりしながら、春の稗田川を楽しんだ。稗田川では桜が咲き、菜の花が土手を彩り、鳥がさえずり、高取小の子供たちを迎えてくれた。どの子も、春のひとときを学級の友だちを共有することができた。学級によってはこの時の写真をずっと教室に掲示しているところもある。



「今日から1年が始まります」

③透視度計やCODパックテストなどで水質調査をしよう

今までの調査から水の汚れに気づいている子供たちは、継続して稗田川の汚れを調べる必要性を感じており、今年も透視度計とCODパックテストを使って、川の水の透視度と汚れの程度を調べてきた。初めて行う子供もいるため、方法は改めては高浜市環境課の加藤さんに教えていただいた。春は、地域の田んぼで田植えが行われるため水が濁り、透視度は10 cm以下のことが多くCODの値も悪か

った。しかし、季節が秋から冬へと変わるにつれ、次第に水は透明度を増し、50cmを超える日が多くなった。また、加藤さんから川幅や水深・流速などさまざまな測り方を教えていただき稗田川をもっとよく知ることができた。

これらの取組が認められ、12月21日（金）には「優秀リポート知事表彰」を受けるために、クラブ員代表2名と顧問で県庁まで出かけた。また、高浜市からもこの取組を認められ、2月21日（木）に市役所で表彰された。



「きれいにしたいね！」

④カルガモの観察をしよう

稗田川には何家族かのカルガモが住み、春ともなれば雛を引き連れ泳いでいる。時間を見つけてはカルガモの親子の観察を行った。

⑤季節と生き物（春）「土手の草花でしおりを作ろう」

4月当初、満開の桜に囲まれながら、稗田川の土手を歩き観察した。子供たちは桜や菜の花に目を奪われながらも、タンポポやシロツメクサをかんざしにしたり、赤や紫のきれいな色の草花をブローチにしたりと、土手には多くの植物が棲息していることに目を向けることができた。「この花なんていう名前なの」などと教師に質問し、多くの草花を摘んで教室に持ち帰ってくる子供もいた。これらのことから、土手の草花を使い「稗田川しおり」を作ることにした。電話帳を利用し挟んで教室に持ち帰ったあと、画用紙に花びらを、一枚一枚丁寧にレイアウトして、パウチフィルムで閉じた。世界で一つだけの特別なしおりを完成させ、どの子供も満足な表情を浮かべている姿は印象的であった。



「土手での植物採集」

⑥ホタルについて学習し、放流しよう、育てよう⑥⑩⑭⑮⑲⑳

一昨年度の4年生が、学芸会で「昔、稗田川にはホタルが飛んでいた」ということを発表した。また、4年前から4年生総合の取り組みが、パネルにまとめられて、校内に掲示されている。昨年の4年生が継続して育ててきたホタルの幼虫が南館一階の廊下に自由に観察できるようになっていた。今年の4年生も当然のようにホタルに関心を持っていた。そこでいつもお世話になっている「フッチーホタル会」の原田ちよ子さんに社会人講師として来て頂き、ホタルについて詳しくお話を伺った。その後、原田さんが飼育しているホタルの幼虫を分けてもらい、一部は教室で飼育し観察を続け、100匹ほどの幼虫は希望の川に放流した。



今年は早くから暑くなり、ホタルにとっては非常に厳しい季節となった。校内の温度も非常に高くなり、教室で飼育していたホタルはさなぎにはなったものの、ほんのわずかしか成虫になれなかった。昨年購入したホタル飼育用のアクアクーラーが故障したことも原因の一つであったようだ。希望の池に放流したホタルも同様で、100匹中5匹ほどしか成虫になれなかった。もっとたくさん成虫になり、飛んで光を放つ姿を楽しみにしていた子供達は非常に残念がっていた。しかし、友達と一緒に幼虫の上陸用の土手を作ったり、エサを与えたり、水を換えたりしたことは子供達にとっては貴重な経験となった。飼育の難しさと生きることの大変さが実感できただろう。



生育過程では、何度も幼虫の様子を観察した。初めは気味悪がっていて、触れることはもちろん、見ることも嫌がっていた子が、ホタルの幼虫の世話をすることで、命の大切さやすばらしさを感じ取り、次第に愛情を深めていく姿は、実際に体験することのすばらしさを実感するものであった。わずかではあったが、成虫になった姿を観察し、ともにホタルの成長を喜び合うことができた。また、暗くなってから希望の川へ親子で観察に訪れる姿が見られた。



「やっと大人になったよ！」

⑦春の遠足（3年・4年）

春の遠足の行き先は、3年生「高浜市鬼みち散策コース」、4年生「明石公園」であった。そこで歩くコースに稗田川沿いの歩道を入れた。季節を感じながら一緒に歩くことで、春の稗田川の風景を

楽しむことができた。毎日通う身近な稗田川ではあるが、子供達は学校前の川沿いの道以外を歩く機会はあまりないため、新鮮に感じた子供たちが多かった。

⑧カルガモ会の人のお話を聞こう（４年）

稗田川と深く関わっている、地域のNPO団体「清流会」の神谷実さんに来て頂いて、お話をしてもらう機会を設けた。神谷さんは、約40年前には、ホテルが飛んでいたというの稗田川の様子や、当時の子供たちの遊びなどの様子、またホテルがいなくなってしまった原因などについてお話をして頂いた。また神谷さんがおっしゃるには最近では稗田川で見ることのできる魚の種類は減ってきており、環境の悪化が心配されるとのことであった。そんな稗田川を心から愛し、少しでも良い環境にしようとして取り組まれている情熱に、子供達は感じるものがあったようだ。

⑨「稗田川クリーン大作戦」をやろう（４年）

学年全体で、稗田川のごみ掃除「稗田川クリーン大作戦」を実施した。稗田川の土手と川底をクラス毎で担当場所を決めて行った。土手隊・分別隊・川底隊という具合である。

川の中に入って、川の中のごみを拾い、土手のごみ拾いの担当の子に渡して回収をしたり、集まったごみを、燃えるごみと燃えないごみに



「いろんなゴミが捨てられてるね！」

分別をしたと、協力して稗田川をきれいにすることができた。様々なゴミが捨てられていることを知ること、社会の単位「くらしとごみ」につなげて学習することができた。実際に自分の生活を振り返り、ごみをどこにどのように捨てたらよいか考えたことにより、「絶対に稗田川には捨ててはいけない。」という意識をもたせることができた。また、視点を高浜市から世界まで広げるきっかけとなった。

「稗田川クリーン大作戦」で、保護者の協力を仰いだことにより、家庭でのごみの量のチェック、分別の仕方、出し方など家庭を巻き込んでの取り組みにつなげることができた。

⑩米作りの学習（～12月）（５年）



「バケツ稲から田植え・稲刈りまで、お米作りを体験しました！」

稗田川の学習の発展として米作りを学習した。田植えから始まり、すげ縄作り・稲刈り・餅つきまで、昨年同様、JAの方や営農の杉浦金光さん、市役所の方々のご協力を得て、様々な体験学習に取り組んだ。田植えや稲刈りでは多くの保護者に参加していただき、子供たちは田んぼの泥に足を取られながらも、楽しく活動できた。今年は学童農園だけではなく、バケツ稲作りに挑戦した。安城農協さんの協力を得て、古代米での稲作りを行った。何種類もの籾をいただき、籾の観察から始まりバケツによる土作り、種まきを行い育てた。発芽し葉がのびていく様子を観察し、同じ時期に蒔いたのに成長の様子が違っていたり、葉の形色なども異なっていた。同じお米であるのにかなり様子が異なり、それぞれ個性があることも分かった。学童農園からは玄米で367kg、精米後の餅米として335kgを収穫することができた。稲刈りでは事前にすげ縄作りを行い、この縄を使い刈り取った稲を縛るという体験をした。収穫した餅米を使い「親子餅つき会」を実施し、多くの保護者に参加して頂いた。



「つきますっ！！」

この会では餅つきだけでなく、きなこ餅とあんこ餅を作る体験もした。会は終始歓声と笑顔のあふれる楽しい会となった。活動の締めくくりとして、各学級で工夫した学習報告会を併せて実施し、支えていただいた地域の方に感謝し会を終えた。

各学級ごとにバケツ稲から収穫した古代米を使い、脱穀・精米し、学級ごとにお米料理に取り組んだ。

⑪泥んこカップに参加しよう

今年で第4回目となるPTA主催の「高取小泥んこカップ」が五反田グラウンド南の学童農園で行われた。昨年は途中から天気は回復。一昨年とその前は雨が降る中行われ、例年天候が心配されるが今年は珍しく良いお天気で始まった。多くの参加者と支援者の協力により、する方も見る方も大いに楽しみながら参加し、応援して頂いた。市長さんや県議さん、市議さんたちも見に来てくださり、大変



「飛んだ！」

盛り上がった。参加した子供たちは泥んこになり、寒さに震えるものもいたが、皆笑顔で、存分に水と泥の感触を楽しむことができた。参加された保護者の皆さんも、童心に返って、子供同様に楽しんでいる姿が印象的であった。

⑬稗田川の終点を見に行こう（４年）

稗田川の学習をする中で、「稗田川はどこへ続いているんだろう」という疑問がわいてきた。そこで、学年全員で稗田川がどこまで続いているかを見に行く計画を立てた。クラスごとに並んで、稗田川の風景を楽しみながら、徒歩で稗田川の終点を見に行った。途中から稗田川の川幅はだんだん広くなり、高浜川へつながっていた。途中、遊水池や水門など様々な施設があり、稗田川の変化を楽しんだ。



「水門です」

⑭季節と生き物（夏）

稗田川の植物にだけではなく、昆虫や魚にも興味が湧いてきたことから「川遊びをしよう」と題し、実際に稗田川に入り、タモなどで生き物を捕まえた。以前にお話を聞かせていただいたNPO団体「清流会」の神谷実さんから「稗田川にはアユがいる」と聞いていたが、残念ながらアユを捕まえることはできなかった。当日はメダカ、ミドリガメ（ミシシippアカミミガメ）、オタマジャクシなどを捕まえることができた。水着を着用して体ごと水中に浸かっている子、メダカを捕まえて、目を輝かして友達に見せたり、じっくり観察したりしている子などがいた。この活動で稗田川を一層身近に感じる事ができた。



「どこにいるかなあ」

⑮デコスクールに参加しました（４年）

環境フェアへの参加を依頼され6月24日（日）に岡崎青年の家まで行き、4月からの活動の様子を発表した。そのために発表や歌（ふるさとの川ひえ田川）の練習を朝早くからおこなった。本番ではかなり緊張したが、環境フェアに参加した皆さんや子供達の保護者の皆さんに発表を聞いていただいた。その後学級でも「こんなひえ田川になったらいいな」というテーマでグループごとに考えをまとめ発表をおこなった。



「緊張したね」

⑯チョウを育てよう（３年）



理科の授業に、「チョウを育てよう」という単元がある。内容はモンシロチョウを飼育観察するというものである。昨年4年担任の1人が、校内でよく見かけられていたジャコウアゲハの幼虫を稗田川の土手で発見した。このことから食草である「ウマノズクサ」が稗田川の土手に群生していることが分かった。今年もモンシロチョウに加えてジャコウアゲハ、アオスジアゲハの飼育観察に取り組んだ。アオスジアゲハはきぼうの池に生えている楠木で見つけた幼虫を育てた。毎日の世話の甲斐があり、何頭ものチョウが成虫となり、子供達の手によって教室から飛び立つことができた。

⑰水生生物による水質検査に参加しよう（ひえ田川クラブ）

市役所市民生活グループの方たちのご指導のもとに、今年も鮫川の水生生物観察を行った。水生生物の観察に加え、透視度や水質の検査方法を教えていただいた。今年の夏は特別に日差しが強く感じられる中、みんなで採集した水を、携帯用顕微鏡などで観察し記録した。また水の汚れを示す「指標生物」という言葉を教えていただき、この水生生物の採集と観察・調査も行い、「稗田川」の水質調査を行なった。

⑱ヒガンバナを見に行こう（全校）

残暑の厳しい年であったにもかかわらず、ほぼ例年通りに、運動会の終わった頃からヒガンバナは花茎を伸ばし始め、前年と変わらず美しく咲きそろった。そこで多くの学級が稗田川に足を運び、秋の訪れを感じる事ができた。花を楽しむだけでなく、トンボなどの虫を捕ったり、その他の植物を観察したり、川をテーマに絵を描いたりした。10月の全校集会では、9月の間毎朝練習してきた「ふるさとの川 ひえ田川」を全校で合唱し、稗田川への思いを深めることができた。

⑲ECOレンジャー21に参加

昨年、夏休みに入る前に協力依頼があり、「デンソー環境プログラムECOレンジャー21」の活動に、ひえ田川クラブが参加協力をおこなった。今年も年度当初から参加依頼があり、午後の川遊びから参加した。残暑の厳しいなか、子供達は水の感触を楽しみながら、夢中になって何度もタモを使

って魚などの生き物つかみをおこなった。稗田川で思う存分川遊びを行うことができた。その後、場所を高取公民館に移動し、エコレンジャーのメンバー達と一緒に、それぞれのグループごとに「どんな川にしたいか」をB紙にまとめ全員の前で発表した。また、ひえ田川クラブの活動の発表を行った。子供達は練習の成果を発揮し、自分たちの今までの活動を堂々と発表することができた。最後に「ふるさとの川 ひえ田川」を歌い発表を締めくくった。



「どんな川がいいかなあ」

㊤かるがも会の稗田川鮫川清掃に参加（全校）

今年も清掃日が運動会のすぐ次の日という、子どもたちにとって大変参加しづらい日程であった。にもかかわらず、暑いほどの晴天の中、多くの子供たち（特に4年生）が参加してくれた。大人と子供が協力して清掃に取り組んだ。清掃のあとは団子や飲み物をいただいた後、参加した子供たちで「ふるさとの川 ひえ田川」を歌った。参加した地区の方たちは、子供達の歌声にしっかり耳を傾けてくださった。稗田川をきっかけに気持ちが一つになった一日であった。



「秋空に歌声を！」

㊤川の水のはたらきを調べよう（5年）

ビデオ教材で学習したり、運動場を利用して流れる水のはたらきの実験を行った後、稗田川に行き、実際に流れる水の速さやはたらき、その日の天候により川の水量が変化する様子を学習した。また、現在進行中の工事も含めて、稗田川に施された治水のための工夫を、実際に見て調べることで学習を深めた。

㊤学芸会でオリジナル曲「まほうのことば」を発表（4年生）

学芸会では「キッズウェーブ」「ムービンスター」「やさしさを信じて」に加えてオリジナル曲「まほうのことば」を歌った。この曲は夏休み中に構想を練って、夏休み明けから曲作りに取り組んで完成させた。最初に曲のコードを考えておき、音楽の時間に「節（音程の上がり下がり、音の長さ）」を子供達に選ばせながら決めていった。歌詞作りでは「友達と過ごしてきて楽しかったこと、嬉しかったこと、又は悲しかったこと」をそれぞれいくつかプリントに書き出すことから始めた。これを持ち寄って、学級担任で話し合いながら一つの歌詞にまとめ上げた。十分に練習した後、学芸会で学年全員で歌い発表をおこなった。「子供達同士関わり合いが表現できる曲」作りを目指して取り組んだ。明るいテンポ・リズムのある曲を完成させることができた。



「心を一つに！」

以下に曲の歌詞を示す。

～ぼくたちの応援歌～
まほうのことば

| | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|
| 1 | 生き物つかみで どこまで大きく ぼくらもどんだん みんなと一緒に ひどい点を取り なみだぼろぼろ 大丈夫ありがとう 勇気をくれたね ファイト！スマイル！ | つかんだメダカ なるのかな 大きくなる いれるかな 心ずたずた 今日は最悪 まほうのことば いつも一緒に | 2 | 春から見守り きれいな光を ぼくらもかがやく みんなと一緒に 友とけんかし なみだぼろぼろ ごめんね仲直り 勇気をくれたね ファイトスマイル 大丈夫ありがとう 勇気をくれたね ずっと（ずっと） ファイト！スマイル！ | 育てたホタル 見せてくれた 大人になる なれるかな 心ズキズキ 今日は最悪 まほうのことば いつも一緒に ずっと まほうのことば ずっと（ずっと） ファイト！スマイル！ |
|---|--|---|---|---|---|



㊤上下水道グループの皆さんのお話（4年生）

前期には社会の授業の中で、高浜市のクリーンセンターへ行きゴミがどのように処理されているか、焼却の余熱がどう利用されているかを学習し、生活環境を守る取り組みを知った。今回は現在高浜市で進められている下水管の設置に関連して、各家庭の汚水がどのように処理され、川に流されているかを教えていただいた。

処理の工程ごとの水をサンプルとして持ってきていただいて、見た目の



「処理場の説明です」

様子を観察し、実際にそれぞれの水の臭いを嗅ぐことで処理の工程の意味を実感することができた。処理前の水の臭さに悲鳴の様な声が上がリ、処理後の水では驚きの声が聞かれた。目には見えないほどの小さな微生物が処理をおこなっている映像を見せていただき、生命の不思議さを実感するとともに、水を汚染から守る大変さを知ることができた。

㊸ 碧南水族館の方のお話（4年生）

いろいろな人にインタビューをしたり、インターネットで調べたりして、稗田川の生き物についてまとめた。1人ずつ担当を決めて調べることで一冊の図鑑を作ることができた。パソコンを使い写真を貼ったり、文章を書いたりすることは、子供達にとってかなり大変なことであった。しかしそれぞれの子供達が、背景の色や文字の大きさ・色を工夫し、楽しく完成させることができた。さらに稗田川の生き物について知りたくなった。そこで碧南市海浜水族館の方に来ていただいてお話を伺った。稗田川水族館で飼育している魚などをスクリーンに映しながら、様々な事を教えていただいた。たとえば、ヨシノボリにはお腹のところに小さな吸盤がついていて、これを使って水槽のガラスに上手にへばりついていることや、コイとフナではウロコの形が違うことなどを詳しく知ることができた。稗田川には「ブラックバス」という外国から来た肉食の凶暴な魚がいるということ、そのブラックバスによって日本に元々いた魚が、次第に減ってきていることなども分かった。



「稗田川の魚たちです」

㊹ 環境保護の看板、パネル作成・設置（ひえ田川クラブ）



「自分たちの思いを形にしています。みんなにひえ田川を大切にしてほしいなあ」

学校の南のフェンスには稗田川の土手を散歩する方達に見えるように、子供達の手作りの様々な看板が取り付けられている。昨年までの稗田川での学習の成果を目に見える形にまとめて、道行く方達に自分たちの思いを伝えるためである。今年は「ひえ田川クラブ」の子供達が、自分たちの一年の活動を振り返って作成した。クラブ員それぞれが画用紙に思いを表し、話し合いながら看板作りをおこなった。授業後のわずかな時間を使い、根気よく仕上げることができた。

㊺ 今まで調べたり、活動したことを発表しよう（4年）㊻㊼

「しおり作り」「ホタル放流」「稗田川クリーン大作戦」「生き物つかみ」などの様々な活動を通して、知ったこと・感じたこと・考えたこと・疑問に思ったことなどを、グループを作って一枚のB紙にまとめ、3年生に発表した。話し合い、調べ学習、インタビュー、稗田川の写真撮影などをしながら準備を進めてきた。これまでの活動から「ホタルについて」「稗田川の生き物全体について」「稗田川のゴミや汚れについて」のテーマで発表することにした。ニュース形式の発表、劇形式の発表、クイズを取り入れたり実物（稗田川の水）などを使って発表などいろいろな工夫をおこなった。現在稗田川の工事をされている方や校長先生にインタビューをおこなったグループもあった。



「ここは何色にしようか」

発表当日は緊張しながらもそれぞれ立派に発表することができた。発表のためにまとめることで、今年一年間の学習を振り返ることができ、稗田川に対する思いを深めると共に、人前で発表することで自信を深めることができたようだ。

㊽ 衣浦東部浄化センターの見学

12月に上下水道グループの方をお招きしてお話を伺った。今回は実際に水を浄化している施設の見学に出かけた。施設の概略を伺った後、施設内の見学をし、処理の実際を見てきた。センターには、毎日ものすごい量の生活排水が流れ込んできて、それを海に安全に流すために、大変な苦勞をして水をきれいにしていることが実感できた。



⑨ 稗田川を散歩しよう（全学年）

1年を通じて各学年様々な形で稗田川に関わってきた。春の学級写真撮影だけでなく、理科や生活で植物・昆虫などの生き物を搜したり、捕まえたり、採集したり、観察したりするなど、春・夏・秋冬どの季節をとっても、稗田川は高取小学校にはなくてはならない存在である。春の桜・菜の花、夏の新緑、秋の色鮮やかなヒガンバナ、冬には透明度の増した川面や土手に生える草の芽、アゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ



ウにジャコウアゲハ、カルガモ、コサギ、ダイサギ、キジ、ムクドリ、ヒヨドリなど、様々な昆虫を数え上げればきりが無いほどである。稗田川沿いにあるフレンド公園に出かけるときには稗田川の土手の道を歩き、図工の授業では写生会を行うこともある。理科の教材にも事欠かない。今年は国語の授業「ニュースを伝えよう」では稗田川をテーマに選んだ子供達もいた。3月になれば菜の花の観察とツクシ探しを計画している学級もある。



『ひえだ川に散策に行きました。真っ赤な彼岸花、コスモス、すすきの道。まだまだ暑い毎日ですが、少しずつ秋は訪れているのですね。前橋の下に、ヌートリアが気持ちよさそうに休んでいました。』

高取小学校ホームページのブログ

秋だけではなく、年間を通じ、多くの学級が稗田川を訪れた。

8 成果と課題

本校では子供達の安全や教育課程との兼ね合いから、4年生で稗田川と深く関わるよう計画し、実践している。4年生の学年当初、子供達は稗田川を身近な存在に感じているものの、川での実体験は少なかった。しかし、川に入って遊んだり、ホタルの育成をしたり、様々な学習活動をするなかで、「もっときれいな川にしたい」「顔をつけて泳げる川になってほしい」「生き物がたくさん住んでいる川になってほしい。」など、稗田川の状況に目を向けられるようになってきた。子供たちは、「稗田川にゴミを捨てない。」「稗田川のゴミを拾う。」「家から出す水をきれいにする。」といったように、川をきれいにするためにどうすればよいか考えられるようになってきた。稗田川・鮫川清掃に参加するなど、ボランティア活動に意欲的に参加したり、自分たちのできることを考え、行動できるようになってきた。



「水」「自然」「生き物」「環境」などについて、4年生で学習した知識や思い・考えを、5年生では米作りの活動に発展させ、6年生では地球温暖化などの世界の地球環境から世界平和へと視野を広げた学習に取り組んでいる。また、自然環境の変容やそこに棲息する生き物、四季折々の変化、たくさんのお話を本校の子供たちは学ぶことができた。この学びを通して自分の大切さ（自己肯定感）、友だちの大切さ（他者理解）、命の大切さも学ぶことができた。

このように子供達の意識は高まり、次の学習へとつながり発展しているのに対して、本校職員の移動が多く、平成19年度スタートの段階では4年担任以外で第4学年担任経験者が校内に3人いるだけであった。本校の取組は平成15年から始まった。つまり、平成20年度には全ての学年・児童が経験することになる。しかし、子供たちの経験は積み重ねられても、残念ながら職員



の体験不足から、十分な意識の高まりがあるとはいえないのが現状である。今後も継続して取り組むことで、単なる一過性のもので終わることなく、本校の伝統となるようにしなくてはならないと考えている。

